

2024 年度 事業報告書

(2024 年 9 月 1 日 ~ 2025 年 8 月 31 日)

特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

1. 事業概況

① 家庭保育園事業【わたり家庭保育園いちごっこ（亘理町認可保育園）】 および、② 生活サポート事業【生活サポート+生活援助サービス（亘理町委託事業）】を主軸とし、③ 子どもサポート事業などを進めてきた。

また、2026 年 4 月開園予定である【学校法人 こども未来館 陽だまりの丘幼稚園】立上げに向けて連携協力を図ってきた。

次に、各事業について詳細を述べる。

2. 各事業詳細

(1) 家庭保育園事業【わたり家庭保育園いちごっこ】

2018 年開園後、2020 年より”モンテッソーリ教育“を取り入れ、個々を大切にした保育を進めてきた。子どもたちを見守り育てる視点の基礎をスタッフ一同で学んできた。2024 年 4 月からは保育の見直しを行い、自由保育へと移行する。9 月以降もその路線を続け、スタッフ同士が園児たちについて、自分たちの保育について自由に意見交換できる環境づくりに取り組んだ。2025 年 3 月まで指導いただきながら行ってきた保育をみんなで話し合いながら進めるという形に大きく転換した。



9/18 のんびり
みんなとのいしいな

食材の高騰・確保の難しさなどを受けて、ヨシケイグループくはぴみる ミールキット>を 2024 年 9 月から 2025 年 6 月まで導入する。ミールキットは、ひとつひとつ手作りお出汁にこだわり、地産地消を生かした食材を使用した給食の味とはならなかった。この 3 才未満という幼いうちから食の大切さを伝えていくにはと検討を重ね、従来の給食へと戻す。

10 か月間の新たな試みにより、「これまで作っていた給食は意義のあるものだったのだ」、「その環境を確保維持していくためには、どのような食材確保を行うのが合理的かつ経済的であるか」など、検討する機会となった。高騰する食材や労務費などなど、一人一人が意識するようになったことは大きな一歩であった。



よちよちさんとおいもほり



10/31 ハロウィン

恒例のおいもほり大会を近隣の家庭保育園「よちよち」さんと実施した。土をいじること（触覚）、食べ物を土から掘り起こして食すること（食育）など、いもほりを通して園児たちは様々な学びを得ることができた。



12/24 クリスマスにバチリ



11/21 称名寺お散歩



3/31 卒園・おわりのつどい



4/2 入園・はじまりのつどい



7/31 ポニーにのったよ



7~9月 プール、みずあそび



給食タイム



広場もたのしいな

(2) 生活サポート事業

6年目となる亘理町委託事業【生活援助サービス】、7年目となる【いちごっこ生活サポート】の2本立てで事業を遂行してきた。



2024年4月からは、補助助成金なしで事業を運営する。今年度で2年間助成を受けずに進めてきた。利用状況は下記のとおりである。

2024年度 生活サポート・生活援助サービス 実績集計表

特定非営利活動法人亘理いちごっこ

2024年度(利用内訳)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計	前年度比	
生活サポート	ごみ出し	3	3	4	1	2	5	8	5	4	2	11	13	61	119.6%
	粗大ごみ処理等												0	0.0%	
	掃除	1	4	3					1				1	10	55.6%
	庭掃除草取り等			1								2	2	5	55.6%
	買物代行	2	2	3	8	4		1	1	1	1		23	143.8%	
	ベビーシッター												0	0.0%	
	在宅サポート	5	6	9	9	9	7	5	4	3	2	4	3	66	68.8%
	調理			1									1	5.9%	
	ペット散歩	5					3	10	5	3			26	2600.0%	
	その他				2	1		1			1	1	6	50.0%	
生活支援サービス	合計件数	16	15	21	20	16	12	17	21	13	8	19	20	198	83.2%
	実利用者数	9	8	9	7	8	4	6	5	6	5	7	9	83	120.3%
	利用額(円)	20,150	38,844	82,500	32,150	29,400	16,400	17,650	21,000	15,894	17,650	48,652	34,550	374,840	58.0%
	調理	2	1	2	2	1	2	2	4	3	2	1		22	440.0%
	ごみ出し	14	11	12	15	11	8	22	9	8	4	6	5	125	195.3%
	掃除	13	12	8	12	13	11	25	12	14	15	18	15	168	135.5%
	買物代行	16	11	12	9	10	12	26	7	6	10	5	7	131	189.9%
生活支援サービス	在宅サポート												0	0.0%	
	合計件数	45	35	34	38	35	33	75	32	31	31	30	27	446	170.2%
	実利用者数	10	8	6	8	6	7	8	5	6	5	4	5	78	162.5%
	利用額(円)	75,260	66,780	65,720	64,660	62,540	60,420	76,320	57,240	57,240	58,320	56,160	51,840	752,500	154.0%
合計利用額		95,410	105,624	148,220	96,810	91,940	76,820	93,970	78,240	73,134	75,970	104,812	86,390	1,127,340	99.4%

※ 利用者数合計は、各月ごとの実利用者の合計

生活サポート事業においては、【収入 ≈ 人件費】、会計等の業務委託を合わせると【マイナス】という結果となった。この要因としては、<ごみ捨て事業>による経費ひっ迫、ベビーシッター依頼や在宅サポートが減った事が大きな原因と考えられる。

また、「一袋 300 円」のゴミ出し事業も継続性が問われている。2023 年 12 月から 20 円/km のガソリン代を料金に加算するようになったが、諸経費の高騰により収支を改善することが厳しい状況である。そもそもこの＜ごみ捨て事業＞は、地域の困りごとの一つを解決することができたらという思いでスタートした。件数にすると、生活サポート事業の 1/3 を占める。この NPO 精神的事業を他の事業の収入でカバーすることができない状況が続いている。

介護サポート事業においては、2025 年度上半期においては、人件費が事業収入を超える結果となった。どのような事業効率化を図ったらしいか、スタッフ全員で原因を解明し、継続可能な事業としていかなければならない。

利用者様からは、次のような声をいただいている。

- いろいろな工夫をしてもらっておばあちゃんが活き活きしてきた
…在宅サポート利用ご家族より
- お盆お彼岸とお墓掃除や花上げ、お線香をあげてもらって助かっている
- 換気扇などの面倒な掃除を丁寧にしていただいて、助かります
- おいしいお料理をありがとう（調理サポート利用）
- この案件、いちごっこさんだから引き受けさせてもらっています
ケアマネージャーからの声 ・・・ などなど

これらの声をいただくスタッフの努力はみなみならないものがある。担当のケアマネージャーと連携しながら、利用者様がより快適な日常を送ることができるようサポートしてきた。

生活援助サービスとしては要支援 1, 2 及び事業対象者が介護保険制度の中で利用できるサービスとなる。生活サポートサービスは、2,400 円/h（継続利用の場合 1,800 円/h）で利用できるサービスとなる。障害を持つ方からの問い合わせをいただくが、この自費でのサービス利用しかなく、利用にまで至らないケースが多くあった。そこで、【障がい者居宅サービス】を開始するべく準備を進めてきた。

＜ありがとうこだま基金＞を活用させていただき、スタッフのスキルアップを図った。生活サポート 5 名が、介護職員初任者研修課程を修了。その中から 1 名が介護福祉士実務者研修課程を修了した。

仙台保険福祉事務所とのやり取りを続け、＜わたり障がい者ホームヘルパーステーション いちごっこ＞を立ち上げるため、事業登録申請書作成を進めた。

（3）子どもサポート事業

今年度も寺子屋スペースを【Watalink】に貸し出す。地域の学習サポートの場として活用していただいている。

昨年に引き続き、公益財団法人 ハーモニイセンターのご支援をいただき、【ポニーキャンプ in わたり 2025】を実施した。

初回から参加してきた子どもたちも中高生となり、今年度初めて高校生がシニア役として小学生たちのお世話をしてくれるキャンプとなった。ポニーのお世話だけではなく、年下の子どもたちを思いやる光景が多々見られた。「参加者は、亘理・山元・仙台・



7月 ポニーキャンプ

名取などから集まった。亘理山元町からの参加が半数を占めた。

参加者の年齢も上がってきたこともあり、今年からは一般の宿泊施設を利用しての開催となった。参加費も一人約 30,000 円とし、シングル親家庭などには割引を適応して参加者を募った。

小学生 18 名（女児・12 名、男児・6 名）

中高校生 4 名（すべて女子 学校カリキュラム等のため初日参加）

参加者は合計 22 名となった。

キャンプ二日目にはスマトラ沖地震の影響による津波警報が発令。

亘理町荒浜湾に面した民宿を宿としたために、2 泊目を断念せざるを得なくなった。

翌日のキャンプ最終日、「参加できる子は、遊びにおいてね」としたところ、17 名の小学生が再び亘理に集まり、キャンプ三日目のカリキュラムを実施することができた。災害時の対応をどのようにしていかなければならないか、今一度確認・実践するキャンプとなつた。

いろいろな地域から、年齢を超えて集まり、動物と触れ合い、けんかするときもあるがともに支えあい、励ましあう光景がちりばめられていた。子どもたちの成長を目の当たりにすることができた。毎年この活動を支えてくださっている公益財団法人ハーモニイセンターのみなさん、そして子どもたちをまじかで見守り遊んでくれたカウンセラーのお兄さんおねえさん、すべてを温かく見守り指導くださったハーモニイセンターのスタッフのみなさんに深く感謝申し上げる。

12 月、<福岡工業大学付属城東高校 ダンス部>の生徒たちが、被災地交流研修に訪れた。山元町語りべの会の案内で、山元町の被災現場を回った。「災害は、あの時ここで起こったことで終わるわけではない。あの時の教訓、あの時の悲しさを再びよみがえらせないために自分たちはどうしたらいいのか。そういうことを常に考えていくことができる人になっていってほしい」という現地の声を高校生たちは受け止めていた。自分たちの日頃の生活がどんなに恵まれているのか、日々の学校生活での苦しさを解決へ向けて振り返るきっかけとしていた。

翌日は、山元町地域防災センター ひだまりホール リハーサル室にて地域のおじいちゃんおばあちゃんたちにダンスを披露したり、福岡クイズで来場者を楽しませてくれていた。

今年も自ら被災し、地域のために奔走してきた大久保勝美氏からお話を伺う。「被災したときどのような行動をとるか」という課題だけではなく、「日頃、私たちは人とどのように関わっていくのか。」など人生の中で必要な多くのお話をしていただいた。



12/22 福岡工業大学城東高校ダンス部
中浜小学校遺構 視察研修



12/22 福岡工業大学城東高校ダンス部
中浜小学校前で

3. 【学校法人こども未来館 陽だまりの丘幼稚園】設立に向けての連携協力

2026年4月開園に向けて準備を進める陽だまりの丘幼稚園立ち上げに向けての協力及び打合せ内容は次のとおりである。

- 職員スタッフ募集及び、園児募集広報協力
- 4月からの給食搬入に向けての準備打合せ
- 絵本準備のための要員確保
- 業者打合せ協力
- 園内清掃に関する打合せ など



2026年4月開園 陽だまりの丘幼稚園 外観図

4. 全体を通して

家庭保育・生活サポート・こどもサポートの3つの柱を安定的に進めるための模索が行われた1年であった。助成金をあてにしないことで、自分たちの弱いところを浮き彫りにすることができた。そこをどのように改善していくか、次への一歩を進めるため全員で協議しながら進めいかなければならないと強く感じた。

2024年9月1日 地区防災訓練の会場となった。

トレーラーハウス撤去の方向が決まり、地区指定避難場所としての機能は残るが、地区催し会場としての役割を終えることとなった。



9/1 地域防災訓練

5. 支援団体等

今年度は下記ご支援をいただき活動してきた。

活動支援：公益財団法人 ハーモニイセンター（ポニーキャンプ）

法人寄付：靈友会 《ありがとうこだま基金》

一般個人：寄付金、ぶどうや桃、梨などの果物、絵本、メンバーのための学びの本

多くの方々に見守られ、NPO法人亘理いちごっこは事業を遂行してくことができました。本年度も心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



2025/2/26 老朽化したウッドデッキを解体

ここでいろいろな出来事をみんなで共有してきました。

ボランティアさんたちに植樹していただいたこの琵琶の木

今も元気です。花のつぼみがいっぱい。

今年もたくさんのが実りました。